

羽田空港の発着枠の柔軟化について

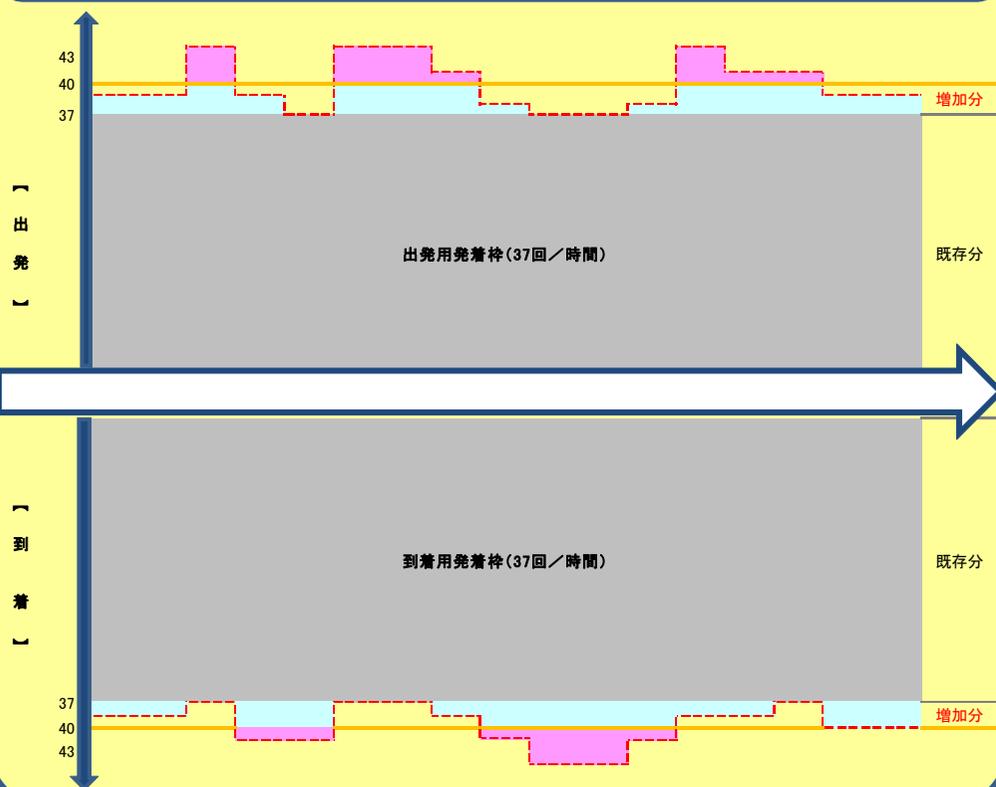
2014年3月30日から国際線発着枠が増枠

相手国の地域によって運航可能な時間帯が限られることから、需要が一定時間帯に集中

総枠数を変えずに、出発・到着回数を柔軟にずらすことのできる枠組みの必要性(1時間あたりの発着回数は80回)

需要イメージ

1時間値を出発40回／到着40回で固定した場合、需要と発着枠との間に差が発生する。



柔軟化イメージ

トータルの回数及び時間あたりの回数を変えずに柔軟にずらす枠組みで運用する場合、需要のある時間帯に就航させることができる。これにより、ダイヤ上1時間値は37～43回の範囲内で変動する。

